

小 学 校

令和7年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	3
IV	研究構想図	3
V	研究の方法と内容	4
VI	研究のまとめ	13

研究主題

伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成

～題材の設定、情報の収集、内容の検討の指導の工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)では、目的を意識して書く材料を比較・分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかを問うことをねらいとして、リーフレット作成のために収集した情報を整理する設問の通過率が49.0%であった。また、目的に応じて、書く材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかを問うことをねらいとして、提案する文章を書くために情報を整理する設問の通過率は45.7%であった。これらの結果から、書くことを見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選んだりするとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことを明確にするという「B 書くこと(1)ア」(題材の設定、情報の収集、内容の検討)の指導事項に課題があることが明らかになった。

「令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省)(以下、「報告書」という。)では、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問(小学校国語「書くこと」②二)において、東京都の正答率は56.4%(全国の正答率は56.7%)、無解答率は5.8%(全国の無解答率は4.9%)であった。正答率は全国の平均より低く、無解答率は全国の平均より高い結果であり、「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)の指導事項に課題があることが明らかになった。報告書では、児童が目的や意図を明確にせずに書いていることが課題の一つとして示されており、児童が目的や意図を意識しながら、題材の設定、情報の収集、内容の検討を行い、伝えたいことを明確にすることで、「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)に関する資質・能力が高まるのではないかと考えられる。

以上のことを踏まえて、本研究では「B 書くこと(1)ア」(題材の設定、情報の収集、内容の検討)の指導事項に研究の重点を置き、研究主題を「伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成」とし、研究副主題を「題材の設定、情報の収集、内容の検討の指導の工夫を通して」として研究を進めることとした。

II 研究の視点

伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成が本研究の目的である。書くことの領域においては、指導事項アからカまでの学習過程が示されているが、本研究では、指導事項ア(題材の設定、情報の収集、内容の検討)に視点を当て、研究を進めた。また、研究を焦点化して進めるため、次に示す二つの研究の視点を設定した。

1 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて

児童が伝えたいことを明確にして書くためには、目的意識をもって題材を設定することが重要である。そのためには、児童が主体的に書くことができる言語活動を設定するとともに、児童が自ら題材を設定できるように教師が適切な支援を行う必要があると考えた。

(1) 児童が主体的に書くことができる言語活動の設定

児童が主体的に書くことができるようにするためには、学習の目的や必然性を自覚できる言語活動を設定することが重要である。本研究では、児童のこれまでの学習や生活経験との関連を図り、児童が「調べてみたい」、「書いて伝えたい」という思いをもち、主体的に書くことができる言語活動を設定した。また、単元全体の学習を見通す場面や学習の状況を振り返る場面を意図的・計画的に設定し、児童が単元の最後まで目的を見失わずに主体的に言語活動を遂行できるようにした。

(2) 児童が自ら題材を設定するための支援

児童が自ら題材を設定するためには、児童に多様な題材があることに気付かせるための支援を行うことが重要である。本研究では、単元の導入場面等において、書く題材の候補を可視化した資料の作成、関連図書の配架、伝える相手へのアンケート調査等の工夫を行い、多様な題材が考えられることに気付かせる。また、題材を検討するための期間を十分に設けることで、児童が自ら題材を設定できると考えた。

2 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて

児童が伝えたいことを明確にして書くためには、目的意識をもって情報を収集し、内容を検討することが重要である。そのためには、書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」を提示するとともに、書くことの目的を振り返るためのワークシートを活用することが必要であると考えた。

(1) 書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」の提示

児童が書くための材料を整理・分類するためには、書くことの目的や伝える相手に応じて情報を収集し、収集した材料を整理・分類する方法を児童自身が理解することが重要である。本研究では、書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」を提示し、集めた材料をどのように整理・分類すると伝えたいことが明確になるかを指導する。このことにより、児童は書くことの目的や伝える相手に応じて、材料を整理・分類できると考えた。

(2) 書くことの目的を振り返るためのワークシートの活用

児童が書くことの目的を振り返るためには、単元全体を通して学習の状況を振り返る場面を意図的・計画的に設定し、振り返りの方法を適切に指導することが重要である。本研究では、児童が書くことの目的を意識して学習を振り返ることができるワークシートを作成する。本ワークシートを活用することで、児童は単元全体を通して、書くことの目的や伝える相手を意識して学習に取り組み、伝えたいことを明確にできると考えた。

Ⅲ 研究仮説

本研究では、前述した二つの視点の手だてを講じることで、児童は伝えたいことを明確にして書くことができると考え、以下の研究仮説を設定した。

《研究仮説》

「書くこと」の領域において、児童が目的意識をもって主体的に取り組むことができる言語活動を設定し、題材の設定、情報の収集、内容の検討における指導を工夫することで、伝えたいことを明確にして書くことができる児童が育つであろう。

Ⅳ 研究構想図

【研究の背景】

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

- ・ 書くことを見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選んだりするとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。

令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省）

- ・ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題がある。

《研究主題》

伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成
～題材の設定、情報の収集、内容の検討の指導の工夫を通して～

《目指す児童像》

[低学年]

経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にして書くことができる児童

[中学年]

相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にして書くことができる児童

[高学年]

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にして書くことができる児童

《研究仮説》

「書くこと」の領域において、児童が目的意識をもって主体的に取り組むことができる言語活動を設定し、題材の設定、情報の収集、内容の検討における指導を工夫することで、伝えたいことを明確にして書くことができる児童が育つであろう。

研究の視点

視点1 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて

- (1) 児童が主体的に書くことができる言語活動の設定
- (2) 児童が自ら題材を設定するための支援

視点2 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて

- (1) 書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」の提示
- (2) 書くことの目的を振り返るためのワークシートの活用

V 研究の方法と内容

1 基礎研究

「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」や「令和6年度全国学力・学習状況調査」、
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」等を参考にして、「B 書くこと(1)
ア」（題材の設定、情報の収集、内容の検討）に関連付けられる力を分析した。

2 検証授業

第3学年（令和7年9月実施）

(1) 単元名 「びっくり！食べ物のひみつブック」を書いてえいようしさんにしょうかいしよう
教材名 「食べ物のひみつを教えます」

(2) 単元の目標

○ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書
や事典の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ

○ 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集め
た材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B (1)ア

○ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に
注意したりして、文章の構成を考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B (1)イ

○ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考え
を伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 単元で取り上げる言語活動

興味をもった食べ物について報告する文章を書き、自校の栄養士に紹介する。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] B (2)ア)

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ)	① 「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B (1)ア) ② 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B (1)イ)	① 粘り強く、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

(5) 研究の視点

ア 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて

(7) 児童が主体的に書くことができる言語活動の設定

児童が主体的に書くことができるよう、興味をもった食べ物について報告する文章を書き、自校の栄養士に紹介するという言語活動を設定した。

本言語活動は、まず、栄養士から「3年生が調べてびっくりした食べ物を教えてほしい」と児童に伝える場面を設定する。次に、児童は興味・関心のある食べ物について調べ、報告する文章を書く。その後、「びっくり！食べ物のひみつブック」という冊子にまとめ、栄養士に紹介する。このような言語活動を設定することにより、自分が驚いた食べ物について栄養士に伝えるために、どのような内容にするとよいか、どのように文章を構成すると分かりやすいかなど、書くことの目的や伝える相手を明確にし、主体的に書くことができるようにする。

(イ) 児童が自ら題材を設定するための支援

児童が自ら題材を設定することができるよう、次の支援を行う。

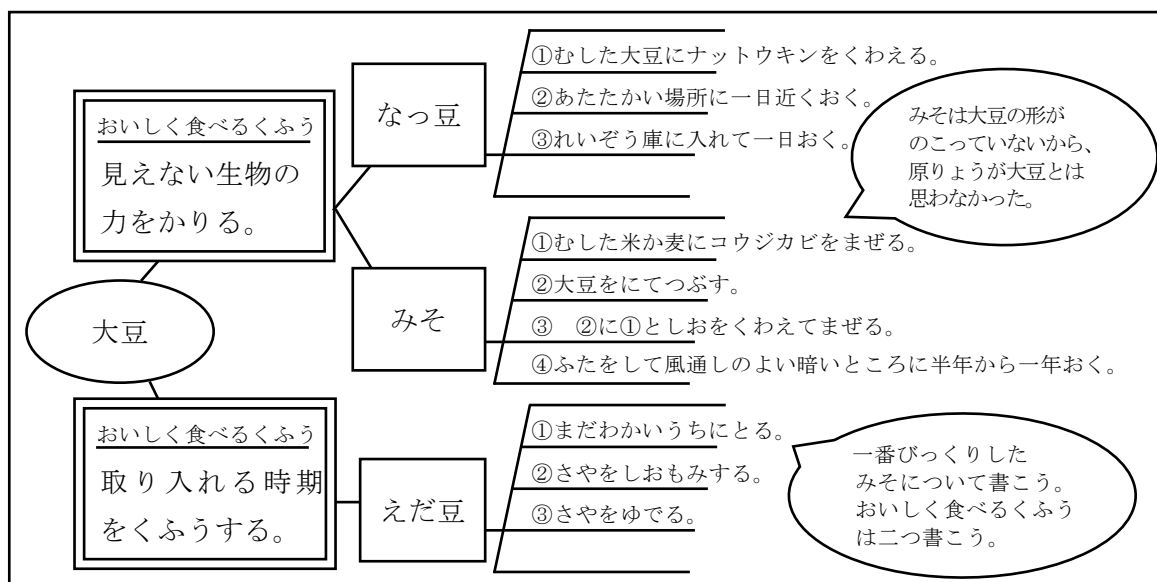
第一に、司書教諭と連携し、食べ物に関する図書を教室に配架し、児童がいつでも関連図書を参照できるようにする。また、電子書籍アプリを活用して食べ物に関する資料を紹介し、児童が多様な情報から題材について検討することができるようにする。

第二に、児童が題材を検討する前に、「どの原りょうがどのような食べ物にかわっているか」という資料を作成する。資料には、牛乳、米、麦、いも類、肉・魚類、野菜・果実類等を示し、多様な題材が考えられるということに気付かせる。

イ 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて

(ア) 書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」の提示

書くための材料を整理・分類するために、教師が作成した「思考モデル」を提示する。はじめに、前単元で扱った教材「すがたをかえる大豆」において、大豆がどのような食べ物に変わっていたかを提示する。次に、提示した資料を基に、児童とやり取りをしながら、「びっくりした食べ物」という視点で、書くための材料を比較したり分類したりする具体的な方法を示す（図1）。



(図1) 大豆に関する材料を比較したり分類したりした資料

このことにより、自ら集めた食べ物に関する材料を、どのように比較したり分類したりすればよいかを具体的にイメージすることができるようにする。

(イ) 書くことの目的を振り返るためのワークシートの活用

児童が書くことの目的を振り返ることができるよう、書くことの目的や伝える相手を確認することができる欄を設けたワークシートを作成する。本単元では、毎時間、本ワークシートを活用し、児童が学習のめあてを確認する際や、振り返りの場面において、「栄養士さんに」、「びっくりした食べ物を紹介するために報告する文章を書く」ということを確認できるようにする。このことにより、児童が単元全体を通して、伝えたいことを明確にすることができるようにする。

(6) 学習指導計画（7時間扱い）

次時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ○ 報告する文章の例を読み、書き表し方の工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に栄養士と連携を図り、書くことの目的や伝える相手を明確にすることで、児童の学習意欲を高める。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や相手を意識して、書くことの題材を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どの原料がどのような食べ物にかわっているか」という資料を提示し、多様な題材に気付くことができるようにする。 	[思考・判断・表現①] <u>振り返りシートの記述</u>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食べ物に関する図書や電子書籍等から、情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集の視点を示し、分類しながら情報を集められるよう指導する。 ・ 司書教諭と連携し、関連図書を用意する。 ・ 情報収集の期間を一週間程度設ける。 	
二	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集めた材料を比較したり分類したりしながら、報告する文章の内容を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くための材料を比較したり分類したりする方法について例を示す。 	[知識・技能①] <u>ワークシートの記述</u> [思考・判断・表現①] <u>振り返りシートの記述</u>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の構成を考え、報告する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「始め-中-終わり」の文章の構成について指導する。 ・ 集めた材料について、取り上げる順番を検討するよう指導する。 	[思考・判断・表現②] <u>報告する文章の記述</u>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 報告する文章を読み返し、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて情報を再収集したり、書く材料を選び直したりしてもよいことを確認する。 	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述</u>
三	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と報告する文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を交流することで、自分の書いた文章のよいところに気付くことができるようにする。 ・ 自分の考えを伝えるために、どのような工夫をしたのかを振り返らせる。 	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述・観察</u>

※ 本単元終了後、児童一人一人が書いた報告する文章を取りまとめ、「びっくり！食べ物のひみつブック」を作成する。その後、栄養士に内容を紹介し、栄養士から感想をもらう。

第5学年（令和7年10月実施）

(1) 単元名 ニューカレドニアの中学生に日本文化のみ力をしょうかいしよう
 教材名 「和の文化を発信しよう」

(2) 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し
 使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料
 を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ア
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し
 方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思
 いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 単元で取り上げる言語活動

日本文化の魅力について説明する文章を書き、ニューカレドニアの中学生に紹介する。
 （関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)ア）

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)	① 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ② 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	① 粘り強く、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。

(5) 研究の視点

ア 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて

(7) 児童が主体的に書くことができる言語活動の設定

児童が主体的に書くことができるよう、日本文化の魅力について説明する文章を書き、リーフレットでニューカレドニアの中学生に紹介するという言語活動を設定した。

本言語活動は、総合的な学習の時間で行う「ニューカレドニア交流会」との関連を図る。児童は交流会の際に、作成したリーフレットを用いて、ニューカレドニアの中学生に日本文化の魅力を紹介する。このような言語活動を設定することにより、日本文化の魅力をニューカレドニアの中学生に伝えるために、どのような内容にするとよいか、どのように書き表し方を工夫すると説得力があるかなど、書くことの目的や伝える相手を明確にし、主体的に書くことができるようにする。

(4) 児童が自ら題材を設定するための支援

児童が自ら題材を設定することができるよう、次の支援を行う。

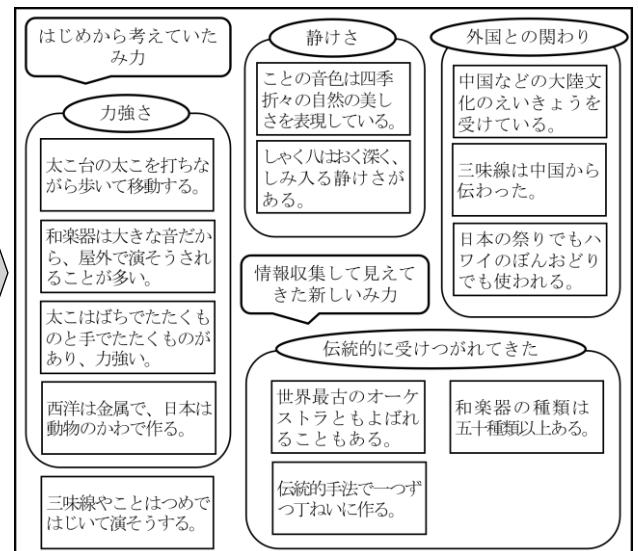
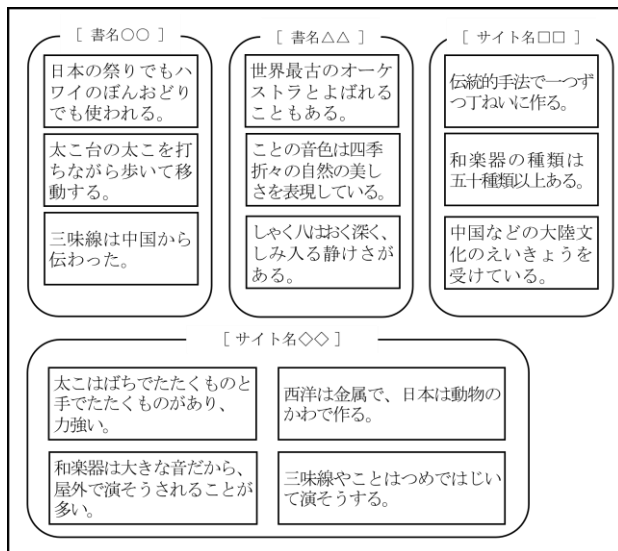
第一に、司書教諭と連携し、日本文化に関する図書を教室に配架し、多様な情報から題材について検討することができるようにする。また、題材を検討する期間を一週間程度設け、児童が自ら題材を設定するための十分な時間を確保する。

第二に、児童が題材を検討している期間、学年共有掲示板に児童が伝えたいと考えている題材を付箋紙で貼らせることで、学年全体で題材の候補を共有することができるようにする。このことにより、多様な題材が考えられるということに気付かせる。

イ 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて

(7) 書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」の提示

書くための材料を整理・分類するために、教師が作成した「思考モデル」を提示する。はじめに、情報源とした図書や Web サイトごとに分類した資料を提示する(図2)。次に、提示した資料を基に、児童とやり取りをしながら、「日本文化の魅力」という視点で、新たに材料を分類したり関係付けたりする具体的な方法を示す(図3)。



(図2) はじめに提示する資料

(図3) 新たに分類したり関係付けたりした資料

このことにより、自ら集めた日本文化の魅力に関する材料を、どのように分類したり関係付けたりすればよいかを具体的にイメージすることができると思った。また、整理・分類が適切ではない「思考モデル」も提示し、適切な整理・分類と比較させることで、伝えたいことを明確にするための整理・分類の方法について気付かせていく。

(イ) 書くことの目的を振り返るためのワークシートの活用

児童が書くことの目的を振り返ることができるよう、書くことの目的や伝える相手を確認することができる欄を設けたワークシートを作成する。本単元では、毎時間、本ワークシートを活用し、児童が学習のめあてを確認する際や、振り返りの場面において、「ニューカレドニアの中学生に」、「日本文化の魅力を伝えるために説明する文章を書く」ということを確認できるようにする。このことにより、児童が単元全体を通して、伝えたいことを明確にすることができるようにする。

(6) 学習指導計画（7時間扱い）

次時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動の見直しをもち、学習計画を立てる。 ○ 図書やインターネットによる情報収集のメリットやデメリットについて考える。 ○ 目的や意図に応じて題材を検討し、情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元の学習を想起し、学習への関心・意欲を高められるようにする。 ・ 読み手はニューカレドニアの中学生とし、学習の見直しをもてるようにする。 ・ 情報収集の期間を一週間程度設ける。 ・ 収集した情報は、出典を記録しておくように指導する。 	
二 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や意図に応じて、書くための材料を集められているかを確認する。 ○ リーフレットにどのような図表や写真が必要かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本文化の魅力を伝えることができるかという視点で材料を確認するよう指導する。必要があれば修正を求める。 ・ 引用の仕方や出典の書き方について指導する。 	
二 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本文化の魅力を伝えるという視点で、集めた書くための材料を分類したり関係付けたりする。 ○ 書くことの目的を振り返りながら、伝えたいことを明確にできたかを振り返る。 ○ リーフレットの割付を考える。 ○ 日本文化の魅力について説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くための材料を分類したり関係付けたりする方法について例を示す。 ・ 情報の収集、内容の検討において気付いた新しい日本文化の魅力も考慮して書く材料を選ぶよう助言する。 ・ 図表や写真をどのように配置すると効果的かを検討するよう指導する。 ・ 調べたことと自分の考えとを区別し、文末表現を使い分けるよう指導する。 ・ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするよう指導する。 	<p>[知識・技能①] <u>ワークシートの記述</u></p> <p>[思考・判断・表現①] <u>振り返りシートの記述</u></p> <p>[思考・判断・表現②] <u>リーフレットの記述</u></p>
二 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とリーフレットを読み合って感想を伝え合い、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことが明確な内容になっているかという視点で読み合うよう助言する。 ・ 必要に応じて情報を再収集したり、書く材料を選び直したりしてもよいことを確認する。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述</u></p>
三 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とリーフレットを共有し、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを伝えるために、どのような工夫をしたのかを振り返らせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述・観察</u></p>

※ 本単元終了後、作成したリーフレットをニューカレドニアの教員に渡し、助言をもらう。
その後、総合的な学習の時間の交流会に向けて内容を改善し、交流会で日本文化の魅力を紹介する。

第3学年（令和7年11月実施）

(1) 単元名 1年生につたえよう「ぜひ来てね！わたしのおすすめの場所」

教材名 「わたしの町のよいところ」

(2) 単元の目標

○ 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2)ア

○ 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B (1)ア

○ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B (1)イ

○ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 単元で取り上げる言語活動

住んでいる町のおすすめの場所について報告する文章を書き、1年生に紹介する。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] B (2)ア)

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B (1)ア) ② 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B (1)イ)	① 粘り強く、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

(5) 研究の視点

ア 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて

(ア) 児童が主体的に書くことができる言語活動の設定

児童が主体的に書くことができるよう、町のおすすめの場所について報告する文章を書き、自校の1年生に紹介するという言語活動を設定した。

本言語活動は、住んでいる町の自分のおすすめの場所について調べ、1年生に分かりやすく伝えることを目的とした学習活動である。このような言語活動を設定することにより、自分のおすすめの場所を1年生に伝えるために、どのような内容にするとよいか、どのように文章を構成すると分かりやすいかなど、書くことの目的や伝える相手を明確にし、主体的に書くことができるようにする。

(イ) 児童が自ら題材を設定するための支援

児童が自ら題材を設定することができるよう、次の支援を行う。

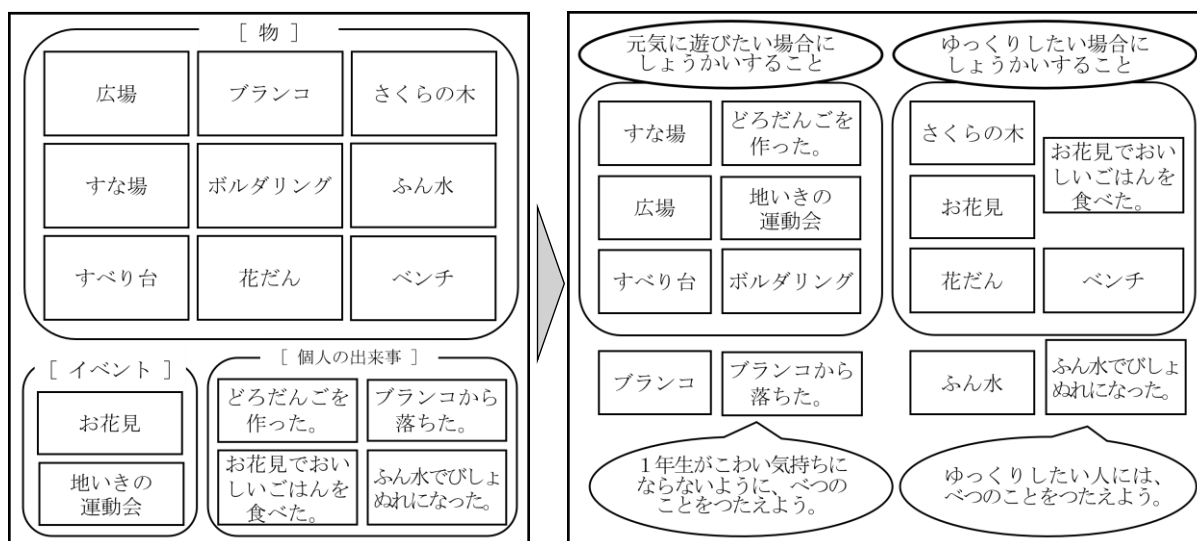
第一に、「町のおすすめの場所マップ」という資料を模造紙で作成する。資料には、学校周辺の地図を提示し、「1年生に紹介したいこと」を「物」、「イベント」、「個人の出来事」に分けて付箋紙に書いて貼るよう指示する。本資料を活用することで、多様な題材が考えられるということに気付かせる。

第二に、事前に教師が1年生に遊びの好みや好きな物などについてアンケート調査を行い、児童一人一人にアンケート結果を共有する。このことにより、児童が伝える相手の興味・関心を意識して題材を設定できるようにする。

イ 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて

(ア) 書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」の提示

書くための材料を整理・分類するために、教師が作成した「思考モデル」を提示する。はじめに、公園を例に、「物」、「イベント」、「個人の出来事」で分類した材料を提示する(図4)。次に、提示した資料を基に、児童とやり取りしながら「紹介された1年生がおすすめのところに行きたくなる内容」という視点で、新たに材料を比較したり分類したりする具体的な方法を示す(図5)。



(図4) はじめに提示する資料

(図5) 新たに比較したり分類したりした資料

このことにより、自ら集めた町のおすすめの場所に関する材料を、どのように比較したり分類したりすればよいかを具体的にイメージすることができるようにする。

(イ) 書くことの目的を振り返るためのワークシートの活用

児童が書くことの目的を振り返ることができるよう、書くことの目的や伝える相手を確認することができる欄を設けたワークシートを作成する。本単元では、毎時間、本ワークシートを活用し、児童が学習のめあてを確認する際や、振り返りの場面において、「1年生に」、「町のおすすめの場所を紹介するために報告する文章を書く」ということを確認できるようにする。このことにより、児童が単元全体を通して、伝えたいことを明確にすることができるようにする。

(6) 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	○ 町のおすすめの場所について話し合う。 ○ おすすめの場所を紹介することについて学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ おすすめの場所を学級全体で共有することで、多様な題材があることに気付かせる。 ○ 伝える相手が1年生であることを確認し、児童の学習意欲を高める。 	
	2	○ 伝える相手のことを知り、題材を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に教師が行った1年生のアンケート結果を共有し、相手意識を高められるようにする。 	[思考・判断・表現①] <u>振り返りシートの記述</u>
	3	○ 情報収集の視点を確認し、情報を収集する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「物」、「イベント」、「個人の出来事」の視点を確認し、分類しながら情報を収集できるように指導する。 	
二	4・5	○ 1年生へのインタビュー計画を立て、インタビューを実施する。 ○ 1年生へのインタビューで分かったことを基に情報を再収集する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら設定した題材を踏まえて、インタビュー内容を検討させる。 	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述・観察</u>
	6	○ 集めた書くための材料を比較したり分類したりしながら書く内容を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書くための材料を比較したり分類したりする方法について例を示す。 ○ 伝える相手によって、同じ場所でも、おすすめする内容が異なる場合があることを確認する。 	[知識・技能①] <u>ワークシートの記述</u> [思考・判断・表現①] <u>振り返りシートの記述</u>
	7・8	○ おすすめの場所について報告する文章を書く。 ○ 書いた文章を読み返し、推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「始め-中-終わり」の文章の構成を意識して文章を書くよう指導する。 ○ 必要に応じて情報を再収集したり、書く材料を選び直したりしてもよいことを確認する。 	[思考・判断・表現②] <u>報告する文章の記述</u> [主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述</u>
三	9	○ 友達と書いた文章を共有し、感想を伝え合う。 ○ 単元の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感想を交流することで、自分の書いた文章のよいところに気付くことができるようにする。 ○ 自分の考えを伝えるために、どのような工夫をしたのかを振り返らせる。 	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りシートの記述・観察</u>

※ 本単元終了後、1年生との交流会を行い、1年生に町のおすすめの場所を紹介する。

VI 研究のまとめ

1 研究の視点に係る児童の姿

	[視点1] 児童が目的意識をもって題材を設定するための手だて	[視点2] 児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手だて
検証授業1 (第3学年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養士に興味をもった食べ物を紹介するという言語活動を設定したことで、単元全体を通して書くことの目的や伝える相手を意識して文章を書くことができた。 ○ 関連図書を教室に配架したり、学級全体で題材について共有したりしたことで、興味・関心を生かして題材を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「びっくりした食べ物」という視点で、材料を比較したり分類したりする「思考モデル」を提示したことで、書くことの目的を意識して内容を検討することができた。 ○ 書くことの目的を振り返ることができる欄をワークシートに設けたことで、常に書くことの目的や伝える相手を意識することができた。
検証授業2 (第5学年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニューカレドニアの中学生に日本文化の魅力を紹介するという言語活動を設定したことで、最後まで目的を見失わずに主体的に言語活動を遂行できた。 ○ 題材を設定するための十分な時間を確保し、学年全体で題材の候補を共有することができる資料を作成したことで、多様な候補から題材を検討することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本文化の魅力」という視点で、書くための材料を分類したり関係付けたりする「思考モデル」を提示したことで、日本文化の魅力について、伝えたいことを明確にすることができた。 ○ ワークシートを活用して書くことの目的と伝える相手を定期的に振り返ることで、目的や意図を意識しながら書くことができた。
検証授業3 (第3学年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生に町のおすすめの場所を紹介するという言語活動を設定したことで、「調べてみたい」、「書いて伝えたい」という思いをもって学習に取り組むことができた。 ○ 教師が1年生にアンケート調査を行い、その結果を児童と共有したことで、伝える相手の興味・関心を意識して題材を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「紹介された1年生がおすすめの内容に行きたくなる内容」という視点で、材料を比較したり分類したりする「思考モデル」を提示したことで、伝える相手を意識して内容を検討することができた。 ○ ワークシートを活用することで、1年生が知りたい内容を意識して、学習に取り組むことができた。

2 研究の成果と課題について

(1) 成果

- ・ 「書くこと」の領域において、児童が主体的に書くことができる言語活動を設定し、自ら題材を設定するための支援を講じることで、書くことの目的や伝える相手を意識しながら題材を設定することができた。また、書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」を提示し、書くことの目的を振り返るためのワークシートを活用することで、伝えたいことを明確にしなが情報を収集し、内容を検討することができた。

(2) 課題

- ・ 伝えたいことを明確にするために、書くための材料を整理・分類するための「思考モデル」は効果的であったが、設定した言語活動に応じて、例示する材料の内容や整理・分類するための視点を更に検討していく必要がある。

令和7年度 教育研究員名簿

小学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
新宿区立落合第五小学校	主幹教諭	◎永井佑樹
墨田区立第一寺島小学校	主任教諭	園田禎恵
江東区立深川小学校	主任教諭	久野夕貴
渋谷区立笹塚小学校	主任教諭	池田菓乃
立川市立柏小学校	主幹教諭	錦戸恵美
三鷹市立第六小学校	主任教諭	増田夏海
調布市立八雲台小学校	主任教諭	後藤竜也
福生市立福生第七小学校	主幹教諭	小倉正裕
東大和市立第十小学校	主幹教諭	一柳美紀
西東京市立住吉小学校	主任教諭	大原道子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 西村 宗祐

令和7年度
教育研究員研究報告書
小学校・国語

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869